

第一約束期間が 始まりました



みんなで止めよう温暖化

チーム・マイナス6%

地球温暖化の原因となる二酸化炭素などの温室効果ガス。京都議定書において日本は「6%削減」と約束しました。そして、いよいよ今年から約束の期間（2008年～2012年）が始まりました。一人ひとりの力は小さいけれど、みんなで合わせていくことで大きな力となります。

美しく住みよい環境を未来に……。 「できること」「知っていること」は一つひとつ実行していきましょう。

省エネ一口メモ

冷房と除湿は賢く使い分けよう

暑い季節にエアコンを頼りにしているご家庭も多いのでは？でも気になるのが電気代（と、地球温暖化）。省エネのため「冷房より除湿運転で」という声も聞きますが…。



エアコンは空気を冷やすことで除湿していますが、除湿は冷やした空気を暖め直して、室温を下げ過ぎないような機能がついています。その分エネルギーを多く消費します。状況に応じて賢く使い分けましょう。

●賢い使い方

- 帰宅したら⇒冷房（その前に十分な換気を）
- 室温、湿度が下がったら⇒弱冷房（停止してみることも）
- 就寝時など弱運転でも肌寒く感じるとき⇒除湿（連続運転にご注意）
- ※エアコンと合わせて扇風機を使うのも効果的です。

緑のカーテンで爽やかに

植物を窓の外で育てることにより、夏の日差しを和らげ、室温の上昇を抑えることができます。特に、アサガオやキュウリ、トマト、ゴーヤなどのつる性植物をカーテン状に育てると、より大きな効果を得ることができます。

室内のカーテンは日差しを遮ることができても、室温の上昇は避けられません。窓の外の手入れも、すだれ自体の熱が室内にも伝わってしまいます。その点、植物自身は熱くなり過ぎることはなく、室温の上昇も抑えられます。



目にやさしく、種類によっては収穫も楽しめる「植物で作るカーテン」に皆さんも取り組んでみてはいかがでしょうか。

※支柱の強度が足りないと、途中で折れたりすることがあります。またエアコンの室外機や煙突周辺では火災や植物の生育悪化などの原因となる場合があります。

問い合わせ先 生活環境課 (☎235111内線225)

写真の道具は、「火熨斗」といいます。木製の柄の先にある底の平らな丸い真鍮製の部分に炭火を入れて、その熱と容器の重みで布（主に絹織り物）のしわを伸ばすために使った昔のアイロンです。一緒に写っている手作りの袋は、使い終わった火入れの部分を包み込むためのものです。

火熨斗の歴史は古く、平安時代後期の記録にも残されており、江戸時代後期の絵図にも2人の女性が火熨斗を用いて小袖風の着物のしわを伸ばす姿が描かれています。明治時代になると、西洋より炭火アイロンが輸入され広く普及しました。火熨斗は、炭火がはじけて火の粉が飛び散

温故知新



火熨斗（袋付き）

種別	民俗
時代	昭和初期から23年ごろ
大きさ	高さ 6.1cm
	長さ 37.5cm
	直径 11.5cm

市郷土館資料から③

り、布を焦がす心配がありますが、日本では良質の木炭が生産されていたのでそれほど問題にはならなかったようです。



昨年8月、北園小学校で行われた火熨斗を使った昔の生活体験の様子（郷土館出前授業）

問い合わせ先
郷土館 (☎235115)